

見えない心が伝わるとき

ある雨の日、駅で子どもと電車を待っていたときのことです。混み合うホームで、ベビーカーを押した保護者が戸惑っていました。その様子に気づいた一人の大人が、言葉少なに場所を譲り、さつと傘を差し出しました。大きな声で何かを言ったわけではありませんが、その所作からは相手を気遣う思いが自然と伝わってきました。

私たちは、相手の人柄を、説明や言葉よりも先に、立ち居振る舞いから感じ取ることがあります。丁寧な動きや落ち着いた態度は、周囲に安心感をもたらします。反対に、どれほど正しい行いであっても、振る舞いが雑であれば、真意は届きにくくなります。

家庭の中でも同じです。物の扱い方、声のかけ方、身の回りの整え方。そうした日常の姿は、知らず知らずのうちに子どもの心に刻まれていきます。

大切なのは、よく見せようと背伸びをすることではなく、相手を思う気持ちが自然とにじみ出ること。日々の何気ない場面こそ、その人の本質が映し出されるのです。

今日の言葉 心は、姿や振る舞いに現われます

子どもは、大人が思っている以上に周囲の様子を敏感に感じ取っています。

言葉の内容だけでなく、話し方、表情、立ち居振る舞いから、相手の気持ちや自分への向き合い方を受け止めています。幼少期から繰り返し目にしてきた態度や雰囲気は、やがて子どもの人との関わり方の基準となっていくます。



教育の場においても、整った環境や落ち着いた対応は、子どもに安心感を与えます。逆に、慌ただしい態度や投げやりな言葉は、意図せず不安や緊張を生むことがあります。どんな声掛けをするか、どんな姿勢で話を聞くか。その積み重ねが、子ども自身の自己肯定感や他者への信頼につながっていきます。

大切なのは、相手を尊重する気持ちを日常の行動として示すことです。きちんと向き合う姿勢、丁寧な所作、穏やかな言葉遣い。そうした一つ一つが、子どもの心の輪郭を形づくります。私たち大人の在り方が、そのまま子どもへのメッセージになることを忘れず、日々の関わりを見つめ直していく必要があります。

【今回の学び】⇒日々の心配りは、目に見える形に徐々に変化していく！